

西都原発「考古学ノート」

## 2015年度 国際交流展「美と技と祈り～台湾原住民の植物利用と南九州人の軽石利用～」の舞台裏

2013年12月23日、西都原考古博物館と台湾新北市立十三行博物館は、学術文化交流協定を締結した。その数年前から当館職員が十三行博物館を訪問し、2012年からは新北市政府と十三行博物館が開催する「考古生活フェスティバル」に当館も招待されていた。

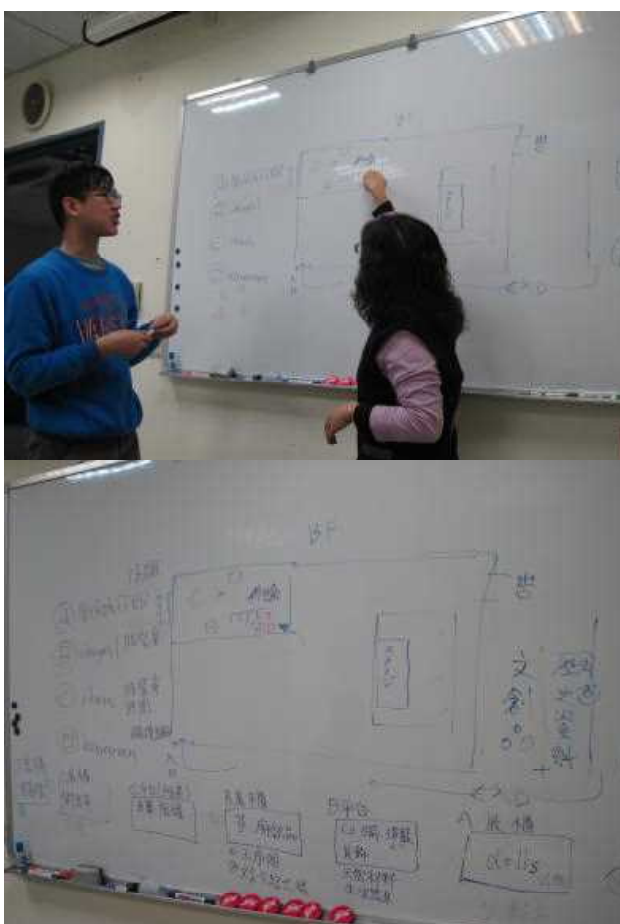
十三行博物館は、台湾の鉄器時代（1800年～500年前）を代表する十三行遺跡の保存と普及啓発を目的に設置された北台湾唯一の考古博物館で、様々な体験活動や環境教育に熱心で、年間に80万人を超える来館者が訪れており、新北市政府は、博物館を核とした町づくりを推し進めている。

同じ考古学専門の博物館であり、調査研究・収蔵・展示に加え、史跡の保存整備と普及啓発、古代生活体験などを活動の柱とする西都原考古博物館として、学ぶべきものが大きいことから、職員の相互訪問、共同調査研究、展示会等の共催などを目的とした学術文化交流協定の締結を申し出たものである。

2014年以降、職員相互の訪問や博物館活動に関するワークショップなどを行いながら、両館の学芸担当職員の間では、共同で行う展示会の検討を進めてきた。十三行博物館から提示されたテーマは、伝統文化の保護継承と環境教育を合わせた「台湾原住民の服飾文化」であり、それを西都原で展示したいというものであった。

当館では、開館以来「日韓交流展」「国際交流展」を継続して開催してきたことから、十三行博物館との展示会においても、一方通行的な紹介ではなく、南九州との対比を踏まえた交流展にしたいと考えた。そして、同じ自然素材の利活用として「軽石」を取り上げることとした。

2014年12月、西都原に来訪された十三行博物館の館長に対し、台湾資料と南九州資料を合わせた「自然素材の利用」を主題とする展示構成案を説明した。しかし、館長の回答は、まさかの「NO!」。軽石を取り上げた理由を繰り返し説明するも、「植物と鉱物は違う」



の一言。少なからずの自信を持って説明した我々は愕然とした。「少し時間をおきましょう。」との十三行博物館学芸担当者の意見を受け、継続協議とした。

軽石は火山の噴出物であり、時に人類への脅威となった自然災害の爪跡である。その軽石を、南九州の人々は原始古代から現代に至るまで利用してきた。それは、自然環境を受け容れ、共生し、利用した、人類の知恵と工夫と創造力の賜物である。そうした姿は、台湾原住民による植物利用にも通じるものである。

2015年2月に台湾を訪問した私に、十三行博の学芸担当者は指で「OK」マークを作って見せた。「館長も納得しました。人類と自然環境の関わりがKeywordです。」と。

そこからは、4月、7月、8月と3度の台湾訪問を経て、タイトル案の検討、資料の選定、図録やパネルのデザインや解説文の執筆など、両館の学芸担当者が協力して作り上げてきた。9月末には、十三行博物館から担当者が来館。9日間の滞在中、資料の確認と展示、キャプションのチェックなどを行い、無事に10月2日に開会式と翌日の一般公開を迎えた。



ある人は「いつになく色のある展示だ」と言った。

「一度は絶えかけた伝統文化の復興は、民族のアイデンティティの回復と未来への想いが込められている」と台湾の彼は言った。

台湾原住民の植物利用と南九州人の軽石利用。そこに込められた「美と技と祈り」は、過去、現在、そして未来をつなぎ、人類と自然の共生を象徴している。

(東 憲章)

平成27年度 宮崎県立西都原考古博物館国際交流展

美、技、祈

台湾原住民の植物利用と南九州人の軽石利用

美と技と祈り

2015(平成27)年  
10月3日(土)～11月29日(日)

「自然と共に生きた人々～台湾と南九州～」  
日 時：2015年10月18日(日) 19:30～18:00  
場 所：西都原考古博物館 1Fホール  
講 師：東 憲章 宮崎県立西都原考古博物館 学芸員

「自然素材を利用した人々」  
日 時：2015年11月14日(土) 10:30～12:00  
場 所：西都原考古博物館 展示室(ギャラリー・トーク)  
講 師：東 憲章、藤木 聡 宮崎県立西都原考古博物館

宮崎県立西都原考古博物館  
Saitobaru Archaeological Museum of Miyazaki Prefecture

〒881-0000 宮崎県宮崎市大字西都原2-2-2  
TEL:0983-41-0041 FAX:0983-41-0061  
http://www.wakurayama-museum.jp/

開館時間：10:30～18:00(観覧料17:30まで)  
休 日：前掲日(祝祭日を除く)および毎月第2日曜日  
観覧料：観覧料無料(高校生以上500円)

入館無料